

会話Ⅱの授業における日本語コミュニケーション能力に対する
プロジェクト型学習の効果

The Effectiveness of Project-Based Learning on Japanese Communication Skills
in Kaiwa II Classes

Yuniarsih,¹

yuniarsih_9906922011@mhs.unj.ac.id

Samsi Setiadi,²

syamsi.setiadi@unj.ac.id

Zainal Rafli,³

zainal.rafli@unj.ac.id

Frida Philiyanti,⁴

fridaphiliyanti@unj.ac.id

^{1,2,3,4.} Universitas Negeri Jakarta

要旨

観察の結果、日本語でのコミュニケーション能力および異文化理解において、学生の能力は依然として向上の余地があることが示された。関連研究により、学習成果は使用される学習モデルに影響される可能性があることが明らかとなっている。したがって、本研究は異文化理解を基盤としたプロジェクト型学習を通じて、日本語会話のための学習モデルの開発に焦点を当てている。本研究で開発された新しいモデルは、学生の日本語による会話能力および異文化コミュニケーション能力を高めることを目的としている。本稿では、2025年1月から7月まで実施された研究開発の一部である実験的研究の結果を報告する。対象は、ジャカルタ国立大学日本語教育学科の学生であり、サンプルは「会話Ⅱ」科目を履修している41名の学生である。効果検証における定量的な結果では、実験クラス（Aクラス）の平均点はコントロールクラス（Cクラス）を上回っていた（ $t_{count_A} = 12,99 > 10,68 = t_{count_C}$ ）。このことから、異文化理解に基づいたプロジェクト型学習による日本語会話モデルは、「会話Ⅱ」授業において効果的であり、導入に適していると結論付けられる。

キーワード：プロジェクト型学習、異文化理解、学習モデル、日本語コミュニケーション